

## 歴史ある港町が相互に連携・発展しあう「開港5都市景観まちづくり会議」

平山 広孝 長崎市まちづくり部景観推進室 技師／長崎都市・景観研究所 所長

### 1. 開港5都市景観まちづくり会議とは

開港5都市景観まちづくり会議は、安政5年（1858）に開港場に指定された函館・新潟・横浜・神戸・長崎の5都市の市民が、景観、歴史、文化、環境などを大切にまもり、愛着をもってそだて、個性豊かで魅力あるまちづくりを行うため、相互に交流を深め、課題を協議し、5都市のまちづくりの推進に資することを目的とした会議である。平成5年（1993）に神戸市で初開催され、以降、各都市の実行委員会により毎年持ち回りで開催している。全体会議や分科会等を通して、概ね3日間にわたり各都市の景観まちづくりの状況の報告や見学、意見交換、交流を行っている。

### 2. 「継承と発展」をテーマとした2016長崎大会

第1回開催から20年以上が経過し、都市間の繋がりが構築された一方で、参加者や企画が固定化されつつあり、本会議の終了を提案する都市も現れていた。そんな平成28年（2016）11月1日から3日に開催された2016長崎大会では「継承と発展～次の世代の景観まちづくり～」をテーマとした。新たな取組みとして、次の世代をターゲットとしたFG（Future Generation）会議を設置し、各都市から若者の参加を求めた。2日目の交流会では4都市から45名が集まり、各都市のまちづくり活動に関する発表や意見交換を行った。3日目の朝には各都市の有志が集まり、今後のFG会議の継承方法についてワークショップを行い、その内容について全体会議で報告を行った。以降、FG会議は各都市で実施されるようになり、SNSやメッセージアプリでグループが組織され、日常的に情報交換が行われるようになった。大会以外でも旅行や出張の際には相互に交流を重ね、継続的に次の世代が参画できる環境が整った。

### 3. 絆が広がった2021長崎開港450周年記念大会

元亀2年（1571）、長崎の港がポルトガルに開港されてから450年の節目に、運よく5年に1度の大会が巡ってきた。2021長崎大会は11月20日から22日の日程で「ポストコロナ時代の港を生かしたまちづくり～歴史・つながり・未来～」をテーマに開催した。ポストコロナ時代を見据え、分科会はこれまでは3～5程度だったものを少数分散型で10に増やしたことで、アクティビティ等の斬新な企画が実現でき、参加者間の交流が深まる良い結果となった。また、全体会議、分科会、FG会議についてオンラインで配信を行い、全国に向けて情報発信することができた。

最も興味深かったのは、本会議がきっかけとなり函館市から伝来した飲食イベント「BAR-GAI（バル街）」を2日目のオプション企画として行った際に、FGと古参のLG（Legend Generation）とが自然と親睦を深めていた場面である。5年間で再構築してきた横（都市間）のFGの絆は、都市と年齢を超えた縦横斜めの都市間コミュニティに発展しつつある。まさに「歴史が未来につながる」そんな一面を見た。それまで任意で開催されていたFG会議が会議規約に正式に盛り込まれ、記念大会は盛況のうちに終了した。

### 4. 今後の展望

本会議で取り扱う景観の切り口は、建築物の見た目の話から、暮らしや産業、観光といった景観を形づくる「人々の営み」へとシフトしている。今後は、これまで構築されてきた縦横斜めの絆を生かし、各都市の人々の営みを肌で感じ、「生きた景観」について考える貴重な機会として、また、ともに発展していく歴史ある港町のコミュニティの礎として本会議が継承・発展していくことを切に願う。



2021長崎大会「全体会議1」終了後の集合写真（2021年）



2021長崎大会「分科会6」出島シーカヤック体験（2021年）

■詳しい情報については「開港5都市景観まちづくり会議公式ウェブサイト」<https://kaikou5.jp/>を御覧ください。